

法人名：

株式会社 男鹿水族館

設立年月日 平成15年4月16日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 小西 司	資本金	100,000千円	県出資等額及び比率	51,000千円	(51.0%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課					
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。												
事業概要	水族館の運営												
関連法令、県計画	なし												
役員数 (R5.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計		職員数 (R5.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		20		3	23
	1	4		1					※役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧(内数)で表示。				

2 法人の行動計画(令和4~7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	○直近(H28~R元年度)の実績等をもとに試算した経営安定ラインである有料来館者数の確保を目指す。 【目標】有料来館者数R4~7年度:165千人/年度				
取組	○生態の繁殖、科学的知見の積上げなどに関する情報発信強化(館内展示の充実) 【目標】解説パネル等の更新を年間1エリア以上実施 ○教育利用(校外学習・修学旅行等)の安定的な獲得及び福島以南等からの利用増加策の実施(R4年度に整備予定の「教育利用等誘客促進重点エリア」を活用し、県内含め福島以南等からの教育利用を積極的に誘致する。) 【目標】教育利用人数について、毎年5,000人を確保する。 ○SNS、館内サイン、ホームページなどによる情報発信強化 【目標】アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」10%増 ○男鹿半島観光、地元飲食店や小売店などとの連携強化 ○新型コロナウイルス感染症のガイドラインに沿った各種催事などの再開 【目標】前年度比で催事等を1回以上増加実施				

3 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
売上高	357,519	624,451
売上原価	84,025	325,911
売上総利益	273,494	298,540
販売費及び一般管理費	276,554	298,702
人件費(売上原価含む)	111,537	111,940
営業利益(損失)	△ 3,060	△ 162
営業外収益	4,130	8,669
営業外費用	114	107
経常利益(損失)	956	8,400
特別利益		2,232
特別損失		5,400
法人税、住民税・事業税	402	1,420
当期純利益(損失)	554	3,812

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
流動資産	260,394	426,953
固定資産	10,924	8,652
資産計	271,318	435,605
流動負債	48,556	209,030
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	48,556	209,030
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	122,763	126,575
純資産計	222,763	226,575
負債・純資産計	271,319	435,605

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項 目	令和3年度	令和4年度	増減※
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	100.3%	101.3%	+1.1
流動比率 (流動資産÷流動負債)	536.3%	204.3%	△332.0
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	82.1%	52.0%	△30.1
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
0	0	-

※中小企業退職共済制度へ加入している。

③県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

株式会社 男鹿水族館

I 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>【令和4年度実績】</p> <p>○有料来館者数：170,360人（計画165,000人）</p> <p>○解説パネル等の更新：2エリア（計画1エリア以上）</p> <p>○教育利用者数：6,695人（計画5,000人）</p> <p>○アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」：61.1%減（計画10%増）</p> <p>○催事開催回数：コロナ禍で中止していた催事関係（夜の水族館など）を再開（計画1回以上）</p>	<p>【令和4年度実績】</p> <p>○入館者数、総収入ともに収支計画、前年を上回った。結果、経常利益8,400千円（対収支計画+24,020千円）となった。</p> <p>○教育利用について実績152校6,695名（計画5,000人）となったほか、一般利用についても男鹿市のプレミアムパスポート事業による利用促進施策の効果などもあり順調に推移した。</p>
<p>【自己評価】</p> <p>○有料来館者数、教育利用者数については計画を達成することができた。催事についても夜の水族館を再開し約3,000人の利用実績を作るなどコロナ禍前の実績に近づいた。</p> <p>○SNS、ホームページを見て来館した利用者が伸びなかったことから、発信内容の見直しを継続的に行っていく。</p>	<p>【自己評価】</p> <p>○行政による各種販売促進施策による効果もあり安定した集客を行うことができた。県内客の利用割合が大きいため持続的な集客策を今後も継続させる必要がある。</p> <p>○水道光熱費だけで対前年23,724千円ほどの負担増がみられたが、収益性向上対策などにより経常利益を対計画、対前年比で大幅に上回る事ができた。</p>
評価	評価
B	A

II 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>○アンケートで「SNS、ホームページによる来館動機」を選択した利用者は前年度より減少したものの、コロナ禍により中止していた各種イベントの再開などにより誘客を図ったことにより有料来館者数の目標を達成している。</p> <p>○教育利用者については、県内の学校の旅程見直しの動きが見られたものの、積極的な誘致活動により目標を達成している。</p>	<p>○当期純利益は黒字となったものの、原油価格高騰等の影響もあり営業利益はマイナスとなった。水族館という事業の性質上、引き続き原油価格高騰等の影響が懸念されることから、今後も適切に対応していく必要がある。</p>
評価	評価
B	A

III 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
A	<p>○行動計画に定める「SNS、ホームページによる来館動機」については前年度実績から減少したものの、「有料来館者数」や「教育利用者数」については目標を大きく上回った点は評価できる。</p> <p>○経営状況については、当期純利益が黒字となった一方で、営業利益が赤字であることから、今後のエネルギー価格の高騰を踏まえて、営業段階での黒字確保対策が必要となる。</p>

【委員からの提言】

<p>○近県では山形県の加茂水族館や宮城県の仙台うみの杜水族館などの人気水族館がある中で、県外からの誘客を進めるためには、男鹿水族館だけの魅力の追及や近隣の観光・教育・宿泊施設等と連携によるパッケージ化を図ることが望ましい。</p> <p>○飲食については一般的なメニューとなっていることから、男鹿水族館ならではのメニュー展開も必要と考える。</p>
---

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
<p>○商圏人口やアクセス面を考慮し、来館者が長く滞在できるように、体験・学習等の事業に重点を置きながら他県の水族館との差別化に取り組む。</p> <p>○近隣観光施設等と連携する事で様々な魅力を持った男鹿半島全体で誘客を促進する枠組みを構築するように努める。</p> <p>○団体や教育旅行については、DMOや地元事業者等と連携し、中長期的な計画を立案しつつ主体的に取組を推進する。特に教育旅行は、コロナ禍での実績を今後につなげるように取り組む。</p> <p>○レストランは調理師が確保できず利用者に不便をかけることに注力せざるを得ない厳しい状況が続いているが、男鹿海洋高校と地元食材を活用した新メニュー開発等を計画中であり、男鹿水族館ならではのメニュー展開を実現できるように努める。</p>	<p>○光熱費等の高上がりの状況が続いていることから、経費の節減や業務の効率化を促す。</p> <p>○展示物の更新や水族館ならではのイベントの企画等、水族館の魅力を高めるような取組を促していく。</p> <p>○教育利用の促進を目的に多目的ホールやキッズスペース等を整備しており、引き続き、法人と連携して教育旅行等の団体客の誘客促進を図っていくとともに、男鹿市及び周辺近隣施設等との連携を促し、男鹿半島地域の観光の活性化につなげていく。</p>